

12 平成 19 年度教育研究公開シンポジウムーキャリア教育への招待  
研究代表者 頼本 維樹（研究企画開発部 部長）

①研究の趣旨，ねらい

当研究所の研究成果を教育現場をはじめとして広く普及し、教育指導法の改善や教員の資質向上などに役立てていただくという趣旨により、平成 2 年度より実施しているものである。

②研究成果の概要

○平成 19 年度は、「キャリア教育への招待」をテーマとして、10 月に国立教育政策研究所社会教育実践研究センターを会場として開催した。

○プログラム内容は次のとおり。

第Ⅰ部 キャリア教育の現状と課題

- (1) 初等中等教育におけるキャリア教育の現状と課題  
国立教育政策研究所 総括研究官 宮下和己
- (2) 大学のキャリア教育の現状と課題  
法政大学キャリアデザイン学部教授 桐村晋次
- (3) 児童・生徒・大学生のキャリア意識について  
国立教育政策研究所 総括研究官 立田慶裕
- (4) 家庭におけるキャリア教育の可能性  
国立教育政策研究所 総括研究官 笹井宏益

第Ⅱ部 新たなキャリア教育の実践に向けて

- (1) 地域連携学校教育による子どもの起業家教育  
大阪教育大学教職教育研究開発センター準教授 関隆晴
- (2) 学びから始めるキャリア教育～PBLの適用～  
千葉大学大学院教育学研究科 教授 上杉賢士
- (3) 産業社会からの要請の変化と対応  
独立行政法人 労働政策研究・研修機構研究員 小杉礼子

第Ⅲ部 パネル・ディスカッション

司会 山田兼尚（国立教育政策研究所生涯学習政策研究部名誉所員）  
パネラー（関隆晴 上杉賢士 小杉礼子 宮下和己 立田慶裕）

- 国立教育政策研究所では、平成 15 年度から 17 年度にかけて「生涯にわたるキャリア発達の形成過程に関する総合的研究」を実施している。このたびのシンポジウムは、当研究所のキャリア教育に関する研究成果を報告すると同時に、キャリア教育の実践的な事例を紹介しながら、キャリア教育に関する議論を一層深めるためのパネルディスカッションを実施した。
- ディスカッションにおいては、キャリア教育の学校教育における位置づけを、OECD・PISA調査におけるキーコンピテンシー概念との関わりにおいて議論した。

③中期目標との関連性

- 中期目標においては、「冊子の発行や会議・セミナーの開催等を通じて、教育関係者や研究者に対して研究成果の還元を図るとともに、本研究所の活動内容等について広く国民の理解を得るための広報活動を推進する」とある。
- シンポジウムでは、関東地区の教育関係者を中心に約 100 名が参加した。本研究所のキャリア教育に関する研究成果を学校、教育委員会等の関係機関に広く普及するという目的は概ね達成された。

④今後の研究予定

- 平成 20 年度は、「学士課程教育の構成と体系化」をテーマとして、文部科学省にて開催する予定である。

⑤本研究の研究報告書

- 毎年、シンポジウムの記録を報告書として作成し、都道府県教育委員会等に配布すると同時に、ホームページでも公開している。  
<http://www.nier.go.jp/kyoutsu2/SINPO.HTM>